



ま
ま
と
わ
た
し

R-18

今夜も

濡れてしまった...

カチャカチャ



ねーえ 藍…

わかっています

橙を寝かしつけたら
伺います



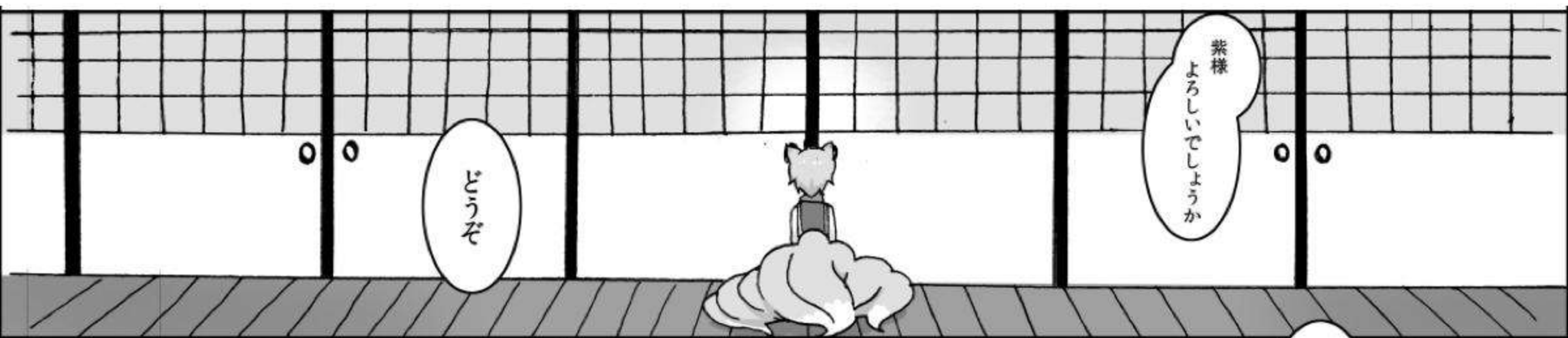


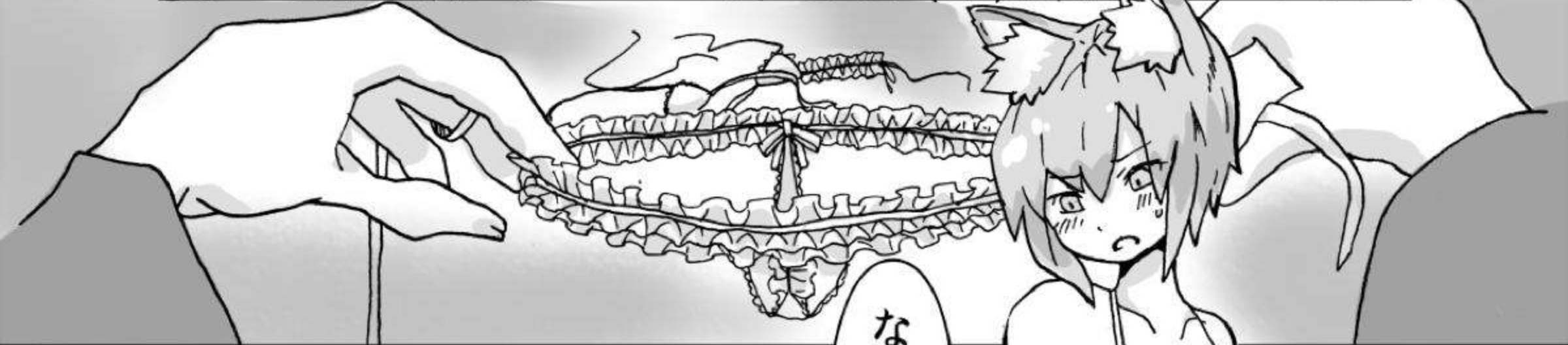
あれは紫様が
私の身体を求めて
いることだった



毎度の事なので
もう何も言われずとも
分かるようになったが







なんだこれは…



下着としての意味を
果たしていないじゃないか…



紫様 入りますよ

ガッ





あら

藍ったら随分と積極的ね



きゅ



—こんなこと

ふわ



式の務めとは言え…

愛の無い、主従関係に寄る
性行為はしたくない…



だけどこんなにも
良い香りで気持ち良くて
結局今夜も快樂に
溺れてしまうのだった

数日後

らんさま
お風呂
入ってきます

たたたた



じゃあ先に行って
待っています



え？

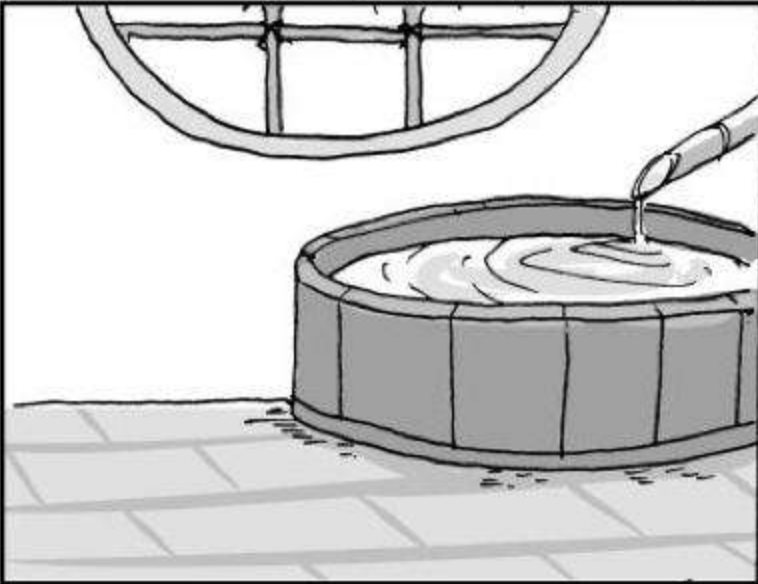
あっはい

ひびっ



あっ橙

今日は一緒に入らないか？



もつとも、
広くは無い湯船に
二人で浸かるのは
賢明ではないのだがー



たたた

橙も大きくなったな…



時々なら悪くも無いな



昔はいつも一緒に入っていたのに

ガラッ

橙
入るよ



な
何でもない
冷えるから先に入ってたよ

らんさま
どうかしたんですか？

ご
ごめん



なんだこの
妙な気持ちは…

わかりました!



橙もひとりです
頭を洗えるようになったんだな

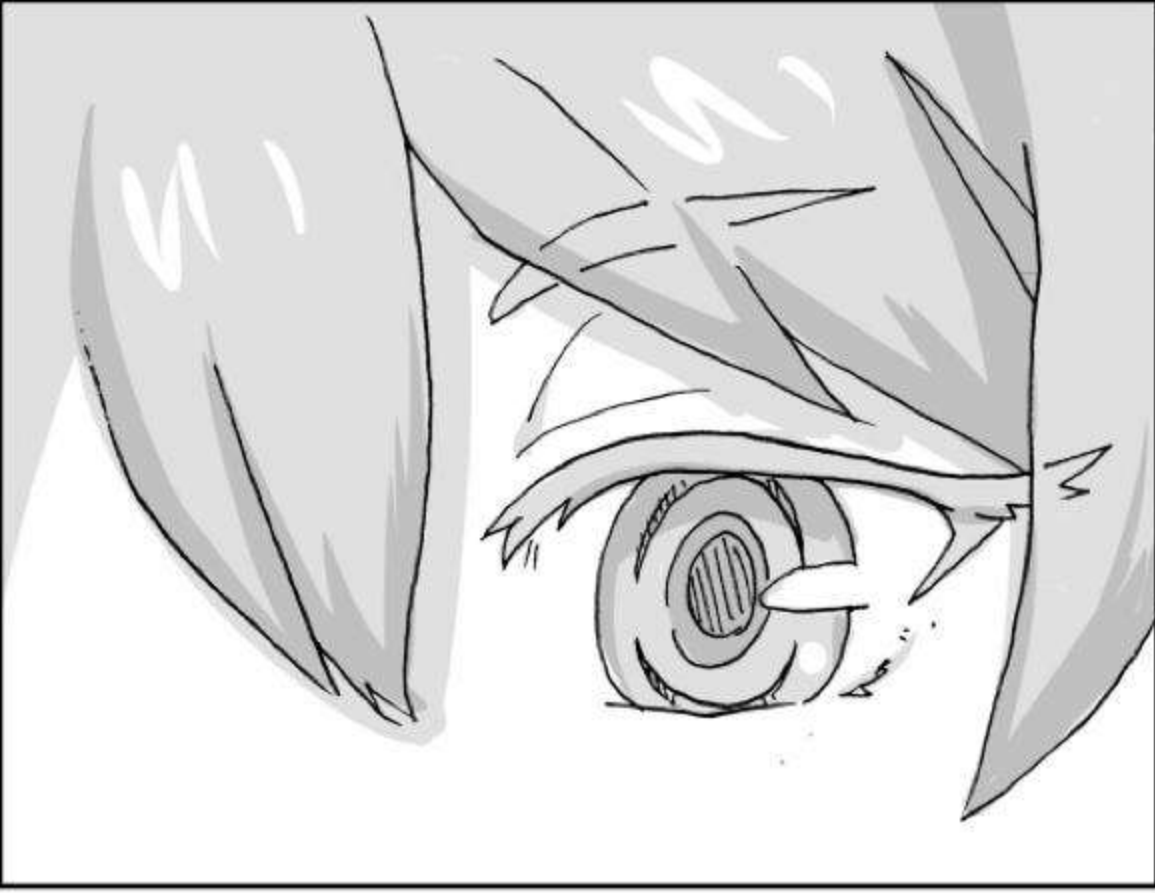


もーうー!

こども扱いしないでください!
もう大人ですよ!

あは げんげん







—んま



…どうかしましたか？

んまか？

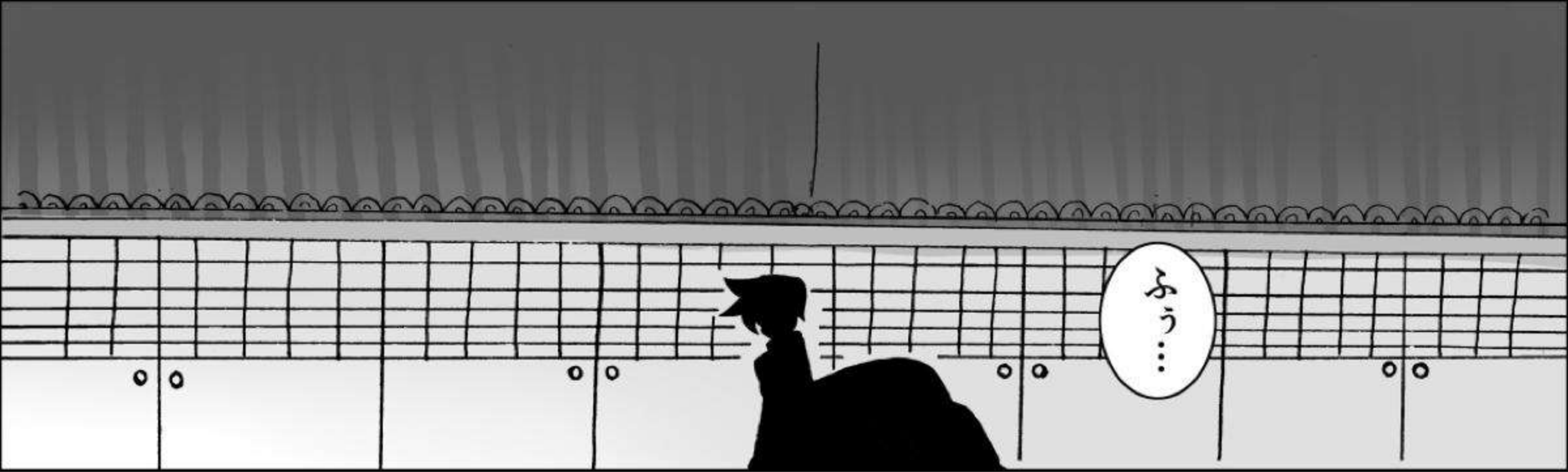


なんでもないよ

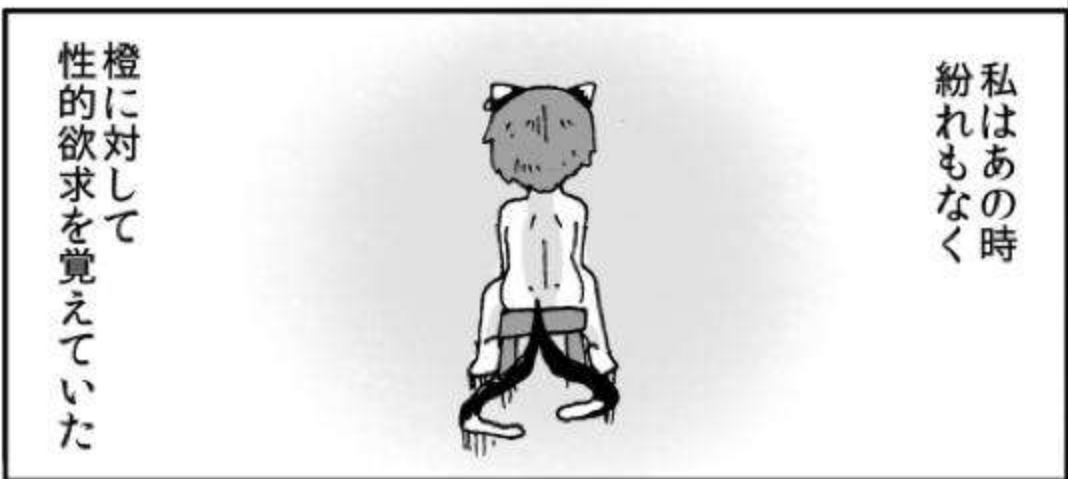
ははは







ふう...



私はあの時
紛れもなく

橙に対して
性的欲求を覚えていた

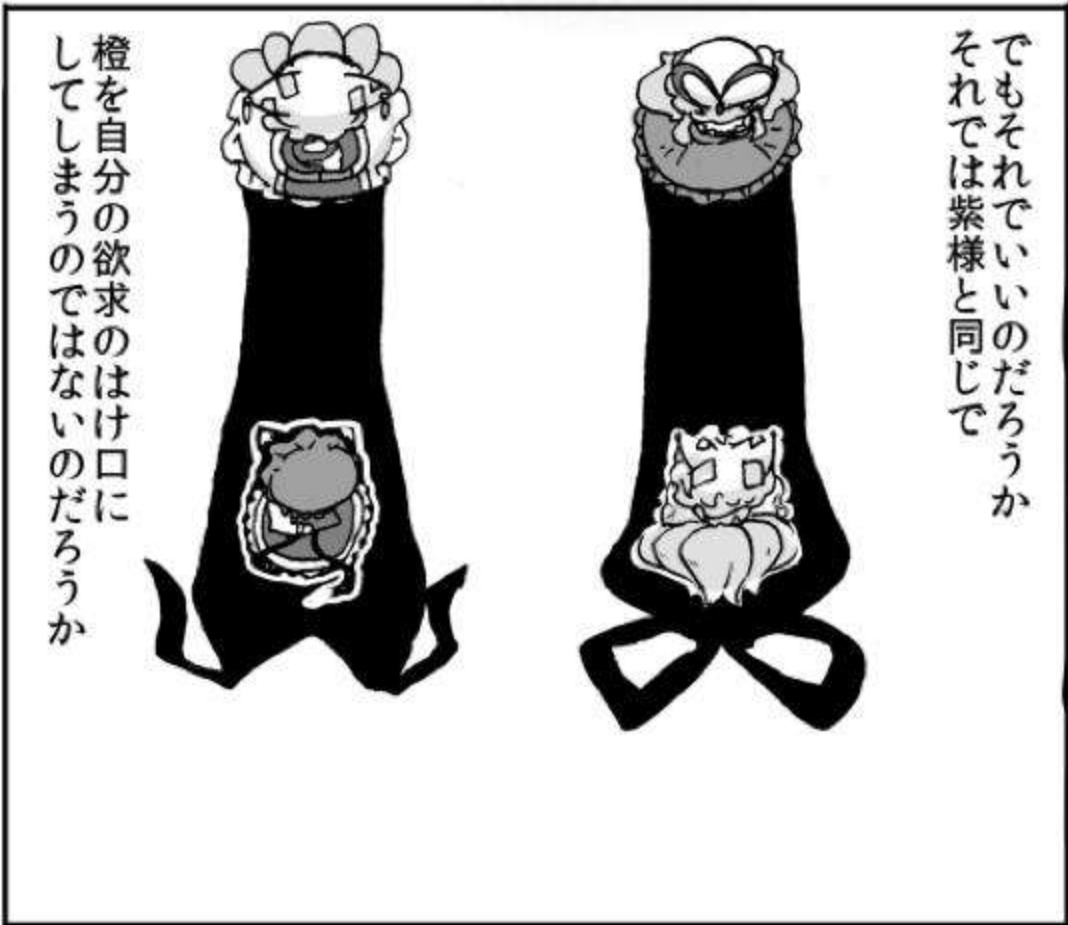


橙...



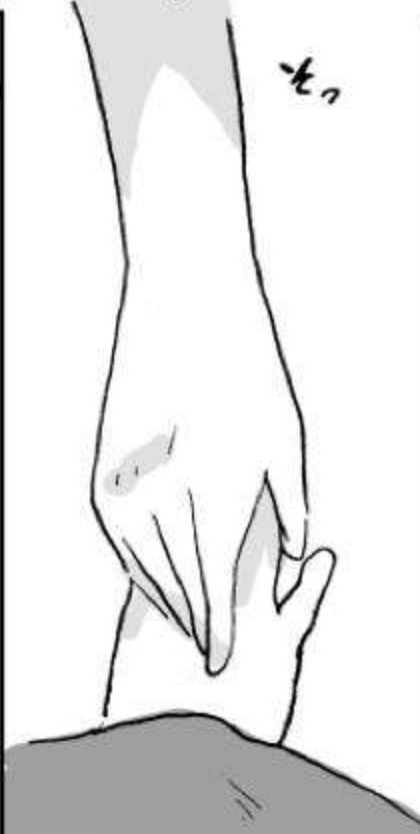
もしそのことを橙に
直接的にぶつけていたら
どうなっただろうか

きっと橙は承諾し
私を受け入れるだろう



でもそれでいいのだろうか
それでは紫様と同じで

橙を自分の欲求のはけ口に
してしまうのではないのだろうか







性処理の道具だなんて
断じて思っていないわ

それに私は藍の事が
大好きだからエッチするの



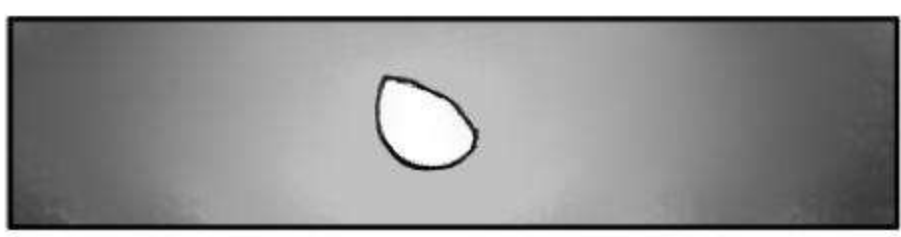
相手の事が好きで求めるのは、
自然なことじゃないのかな？

そりゃあ誰彼構わず
やりまくるのは考え物だけど



紫様…

…



とても幸せだった

初めて紫様に触れ
抱きしめられた時



そういえば
まだ橙が
居なかつた頃

紫様と私
二人きりだった頃



この上ない幸福感に
包まれていた

まるで肌の温もりが
心の奥底まで
暖めてくれるような

ねえ藍



誰かを抱くのは
身体が気持ち良い
からって理由じゃない
と思うの

肌を合わせることで
五感で相手を感じられる
愛する相手を
より知ることが
出来るからだと思うの



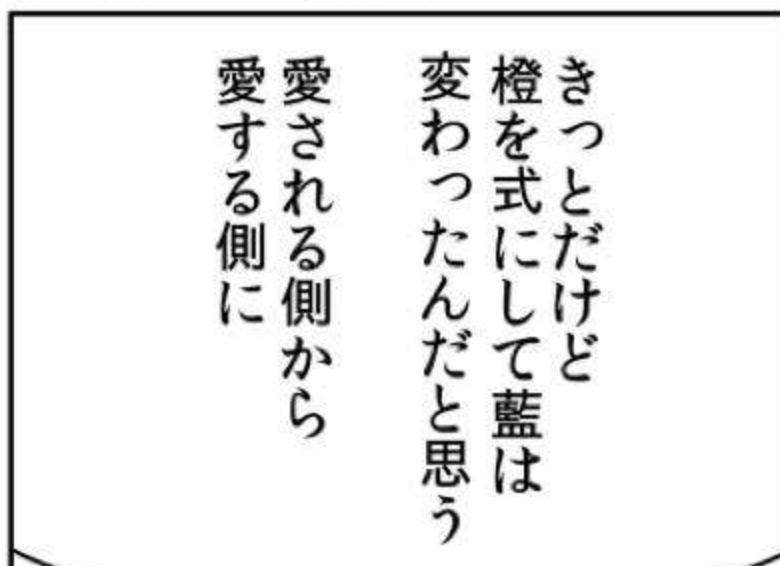
では私は
紫様を愛していないことに
なるだろうか

紫様はこんなにも
私の事を思ってく
れているのに…

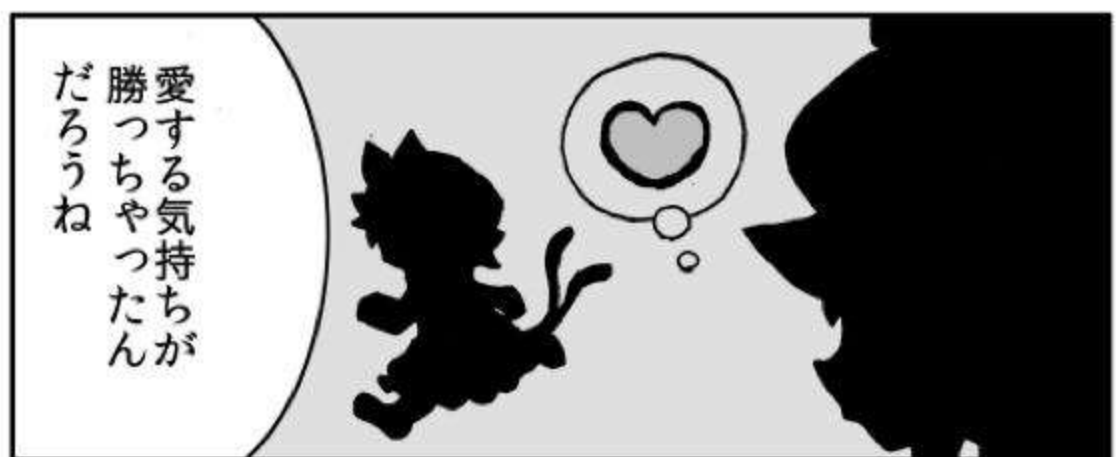
あ、別に私に抱かれるのを
嫌がる藍が私を好きじゃない
って言うてるわけじゃないの



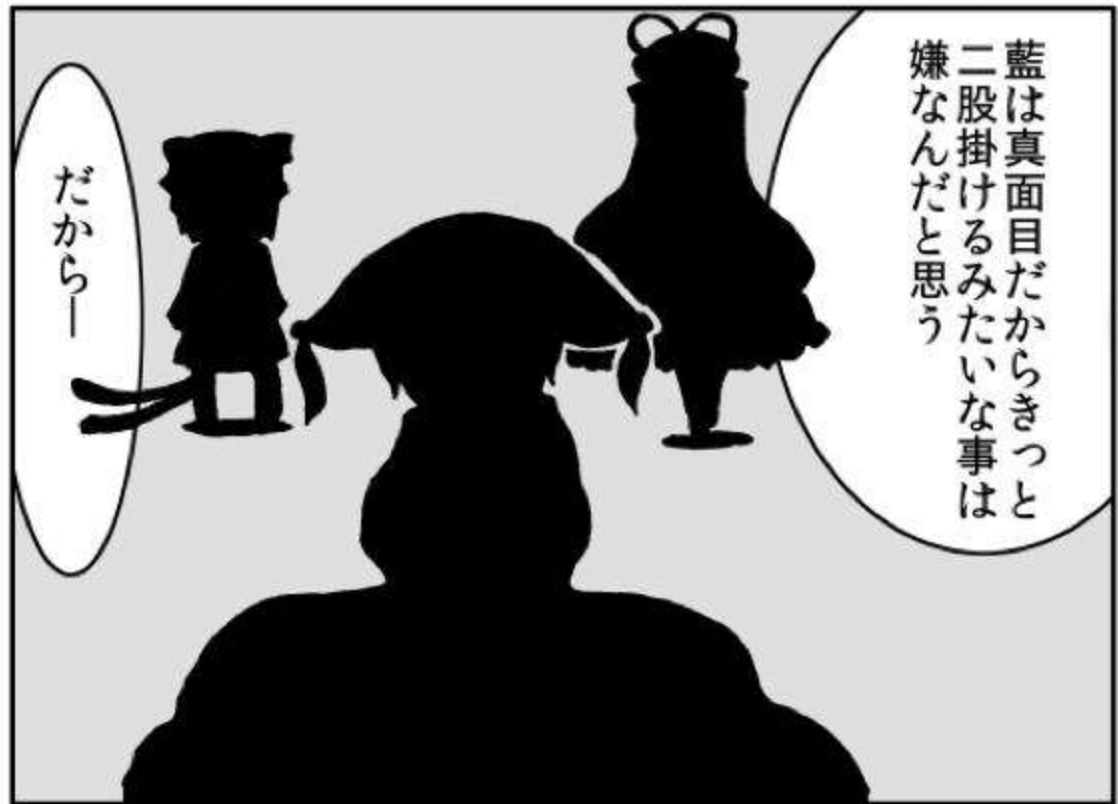
でき 愛されるのは
慣れてきちやうと
感じにくくなるものだから



きつとだけど
橙を式にして藍は
変わったんだと思う
愛される側から
愛する側に



愛する気持ち
勝つちやったん
だろうね



藍は真面目だからきつと
二股掛けるみたいなのは
嫌なんだと思う

だからー

昔の私が
あなたにしたように…



私の事は良いから
自分の気持ちに
素直になつて
橙の事を愛してあげて



何故だろうー



ほら

黙りこくつてないで
橙を襲ってきなよ!



紫様の
愛の深さに

あ

その時やつと
私は気づいた



橙にこんな事を
言われたら
私は激しく
取り乱すだろう

言えない
絶対に
言えない

もし自分が
紫様の立場だったら
こんな風に
言えただろうか



私の気持ちを
大切にしてくれた

でも紫様は違った



主従の関係なのだから

私を束縛すること
だって出来る

でもしなかった

それが愛だからだ



もう泣くのはやめなさい

よしよし わかったから



ごめんなさい...

ねえ
ちよつと急に泣き出さないでよ
なんか気まずいじゃない



でも紫様のことは
もつと愛している

私は橙を
愛している



ん？ なあに？

ゆかりさま...



親子であり

そして
家族だった

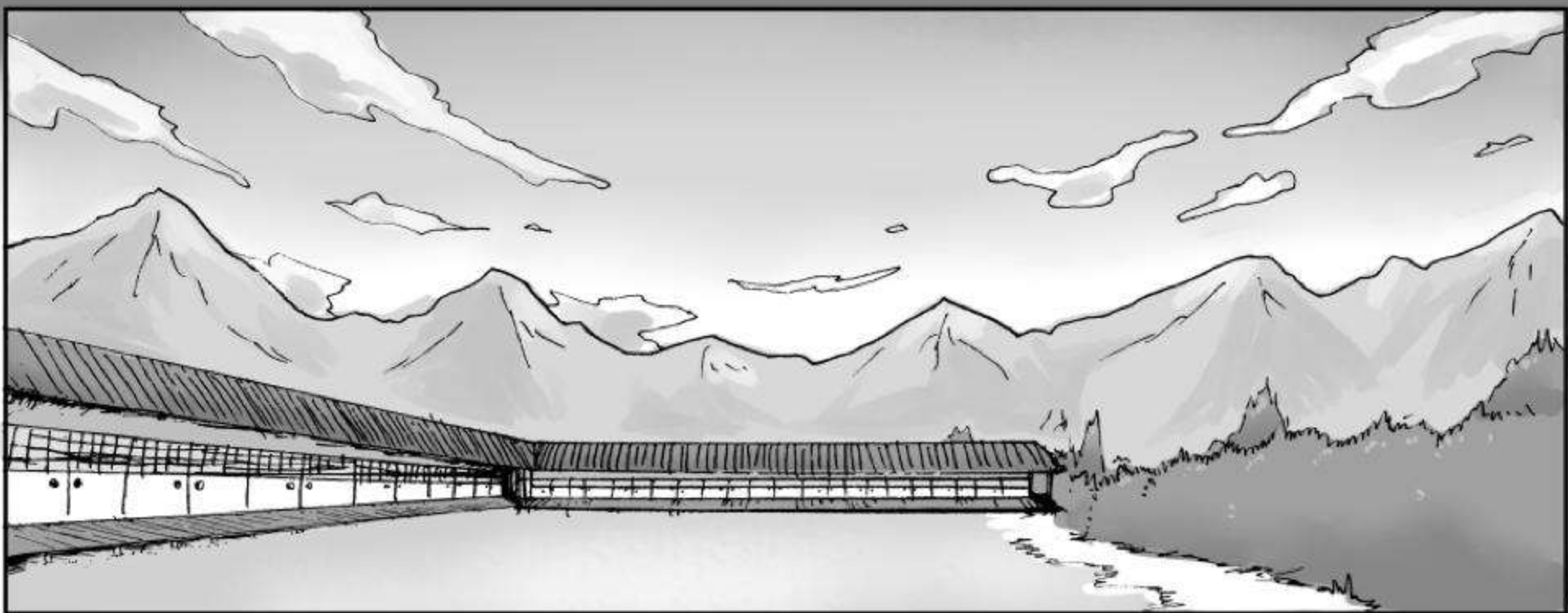
主従であり
姉妹であり

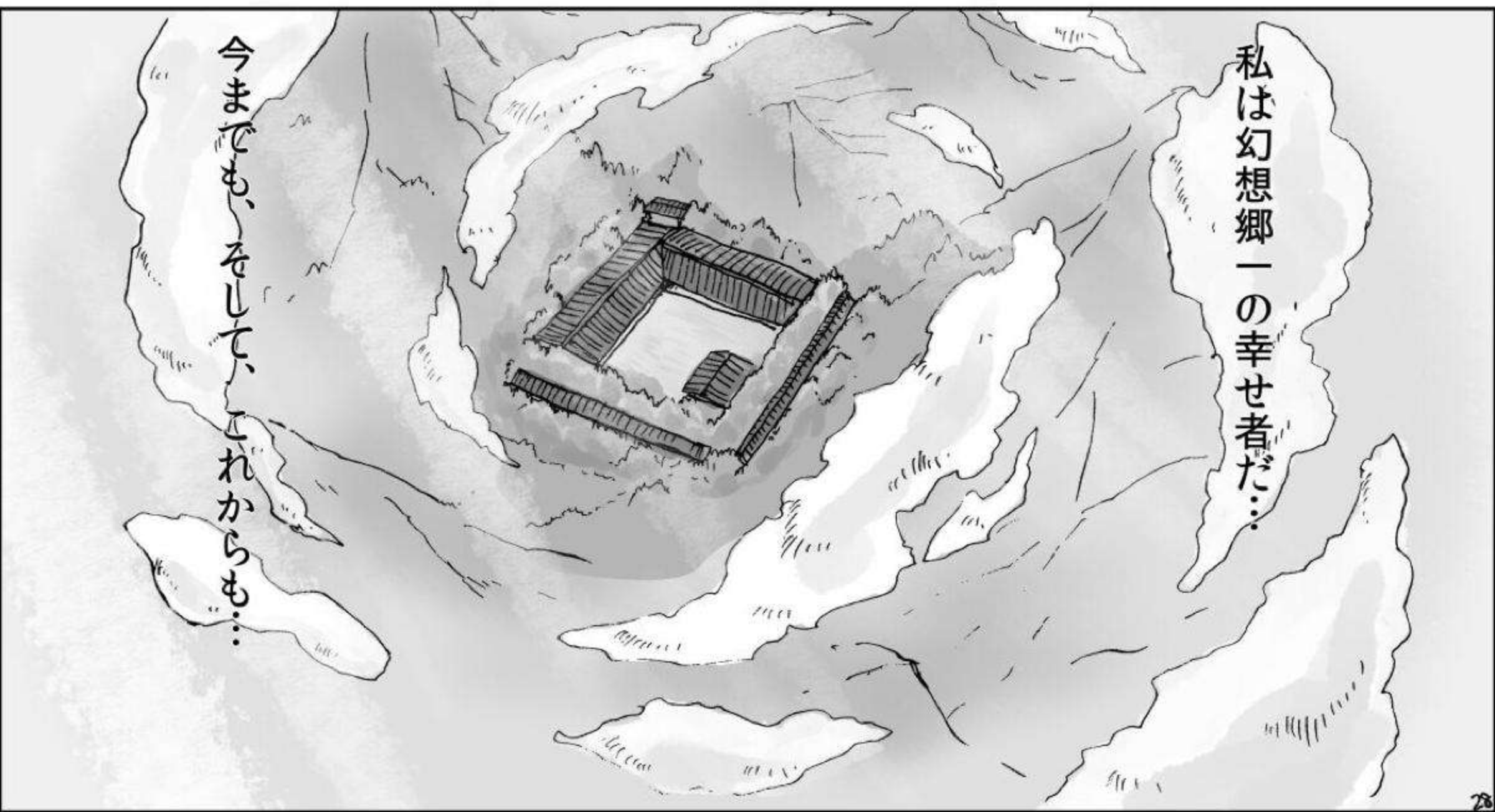
そして
私たちは男と女のような
束縛しあう関係ではない



ちねじち

あつじちち







あっ！

橙のこと忘れてた！



おしおし



あとがき



はじめまして、七房ろいです。
東方Projectでは初の同人誌です。
今回の題材は、ざっくり言うと恋する藍さまのお話。
内容的に成人向けにしましたが、エロ目当てで手に取られた方
にはごめんなさい（エロ描けないんです）
ちなみに元になった小説ございます（漫画・同人誌化は許可取済）
ぜひ小説も読んで下さいね▼
<http://www.pixiv.net/novel/show.php?id=528503>

拙い本でしたが、最後まで読んでいただきありがとうございました。
また次回の本でお会いできることを願っております。

奥付

東方Project Fan Book

紫さまとわたし

発行日：2016/05/08

印刷：ねこのしっぽ様

発行：七房ろい/兎猫旅団

Pixiv：1810731 Twitter：pmx025

原作：上海アリス幻楽団様

※無断転載・複製禁止



兔猫
旅①

東方Project Fan Book

